



写真集とともにドイツへ
2010年ドイツのカッセルで行われた4th International Photobook Festivalに出展。右の写真はその時行われた写真家によるトークショーの様。右から2番目がMaxwell Anderson。



■写真集「See You Soon」
2010年・Bemojake
■Maxwell Anderson 写真展
東京・プレイスM、M2ギャラリー
8月1日(月)～7日(日)
TEL: 03-6225-0151

Maxwell Anderson
[マックスウェル・アンダーソン]

1986年生。ロンドン在住。ロンドン・カレッジ・オブ・コミュニケーション卒業後、セルフレーベルBemojakeを設立し「See You Soon」を出版。フォトグラフィーズ・ギャラリー (UK) での展示を皮切りに、パリ、トロント、カッセルなど各都市のフォトフェアに参加。2011年に東京、2012年にはドイツでの個展が予定されている。



02 異国の男女の せつない恋の物語

Maxwell Anderson 「See you Soon」

英国新聞ガーディアンが選ぶ2010年写真集ベスト10にランクインした作品は、日本通のイギリス人写真家マックスウェルと、ひよんなことから彼の元で偶然暮らすことになった日本人女性との恋。「また会う日まで」と題された、つかの間の逢瀬の物語。



日本通のイギリス人写真家たちあげたセルフレーベル
今年、アメリカのWEBサイト「PhotoEye」で行われた著名な写真家や編集者が一年間に出版された写真集の中から優れた作品を選ぶ企画「Best Book 2010」の上位に、新人マックスウェルアンダーソンのセルフパブリッシングによる作品集「See you Soon」が名を連ねた。アレック・ソス、ウィリアム・エグルストンら大物作家と肩を

並べての選出は異例の事態で、英国新聞ガーディアンが選ぶ2010年写真集ベスト10にもランクイン。
「とても驚いたし、すごく嬉しかった。僕の作品を人が理解してくれたことに感動した。反響もすくなくて、3週間後にはすべて売り切れたんだ。」
「See You Soon」は、イギリスに来た日本人女性との偶然の出会いから物語は始まる。ありふれた恋人の日常が、日記のように続くのだが、急速に接近した二人の恋の熱は、彼女のパスポート切れという理由であっけなく終わってしまう。初めから終わりが予兆されているかのように、彼女の笑顔やその仕草、写真の細部からも、どことなく物悲しさが伝わってくる。

「僕とジュンとの間で交わされる、ほんの少しの言葉や仕草、それが例え数秒間の一瞬であっても、それを大事にできるような本にしたかった。」
当初は作品として撮影した写真ではなかった。彼女の帰国後、一人寂しくパソコンのディスプレイで写真を眺めているとき、一気に感情が爆発した。

全ての写真をプリントアウトして、床に並べて物語を作り始めた。
マックスウェルの経歴はマグナムやマートン・パーなどの写真集の出版を手掛けているクリス・ブートとの出会いから始まった。マックスウェルがLLC (ロンドン・カレッジ・オブ・コミュニケーション) 在学中に、クリスが企画していたNYの展示を偶然手伝うことから二人は出会い、卒業後はアシスタントとして働く中で写真と出版のノウハウを学んだ。クリスが出版社「Adventure」のディレクターに就任後は、そこからの仕事を引き継ぎ、自身で「Bemojake」という写真集のセルフレーベルを設立。その第一弾として「See You Soon」は出版された。

「クリスマスからは出版にまつわるあらゆることを学び、写真の父として尊敬しているけど、自分の作品を出版することも含めて、僕がしたいことを自由にできる場所が欲しかった。それが写真集のセルフレーベル立ち上げにつながったんだ。」

来日経験もあるマックスウェルは、大の日本写真通であり、表紙のデザインは中平卓馬の「来たるべき言葉のために」をモチーフにしたというくらい、日本の写真を身体に吸取している。
すでに2冊目の写真集も出版し、勢いも増しているように見えるマックスウェルだが、本人はいたって冷静に、「なににも変わらない」という。そんな彼の個展が8月から東京でスタートする。

今月の **PHOTO & PEOPLE**
インタビュースペシャル